

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

- (1) 調査の目的 児童生徒の学力・学習状況の把握と学習指導の改善を図る。
- (2) 調査対象 土岐市内全小学校8校の第6学年児童(411人)
土岐市内全中学校6校の第3学年生徒(428人)
- (3) 調査内容 学力に関する調査(国語, 算数・数学, 理科)。生活と学習に関する調査
※本調査で明らかにできるのは, 児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分
や学校における教育活動の一側面についてである。
- (4) 調査日 国語, 算数・数学: 令和7年4月17日(木)
理科: 令和7年4月14日(月)から4月17日(木)のいずれかの日

2 土岐市の現状

(1) 学力について

※全国と市の正答率の比較・中学校理科はIRTスコアの比較

(◎: 上回る ○: ほぼ同じ □: 下回る)

国語		小学校	中学校
全体		□	○
学習指導 要領に関 すること	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	□	○
	(2) 情報の扱い方に関する事項	□	
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	□	
	A 話すこと・聞くこと	□	○
	B 書くこと	□	○
	C 読むこと	□	○

算数・数学		小学校	中学校
全体		□	○
学習指導 要領に関 すること	A 数と計算	□	○
	B 図形	□	○
	C 測定	○	
	C 変化と関係(小学校)・関数(中学校)	□	○
	D データの活用	□	○

理科		小学校	中学校
全体		□	◎
学習指導 要領の区 分・領域	「エネルギー」を柱とする領域	□	
	「粒子」を柱とする領域	□	
	「生命」を柱とする領域	□	
	「地球」を柱とする領域	□	

小学校の国語では、全体的に全国平均を下回る結果でした。具体的には、「文の中で正しい漢字を使って表現する力」や「文章・図表を結び付けて情報を正確に読み取る力」に課題があります。算数では、「C 測定」が全国平均とほぼ同程度の結果でしたが、それ以外の領域では全国平均を下回る結果となりました。特に、「B 図形」の学習において全国平均より大きく下回り、図形の性質に関する知識の定着が不十分であると考えられます。理科ではすべての区分・領域で全国平均を下回る結果でした。各領域において、探究的な思考を養うことや、物事の共通点や相違点を比較し、自分の言葉で説明する力を高めることが必要です。

中学校の国語では、文章の表現効果を読み取る力は、全国平均とほぼ同程度の結果でした。一方で、自分の考えを分かりやすく伝えるために表現を工夫することには、課題があります。数学では、「データの活用」において全国平均を上回る結果となり、データ活用に関する知識や技能が定着していると考えられます。一方で、「A 数と計算」では、式の意味を読み取り、説明することに課題があります。理科の平均 IRT スコアは全国平均を上回りました。身の回りの事象から疑問や課題を見つけ、それを解決する取組を行ってきたことが成果として現れていると考えられます。

(2) 児童生徒質問紙調査の結果

<表の見方>

* 「当てはまる」と回答した全国の児童生徒数の割合と、市の児童生数の割合の比較

◎：上回る ○：ほぼ同じ □：下回る

◆学校での学習について

○ 主体的・対話的で深い学びの視点 「当てはまる」と回答した児童

番号	質問項目	小学校	中学校
(31)	これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	□	◎
(32)	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	○	◎
(35)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	○	◎

○ 個別最適な学びと協働的な学びの視点 「当てはまる」と回答した児童

番号	質問項目	小学校	中学校
(34)	これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	○	○
(39)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	○	◎

○ ICT 機器の活用に関する状況 「ほぼ毎日」と回答した児童

番号	質問項目	小学校	中学校
(28)	これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT 機器をよく使用している	◎	◎

「課題解決に向けて主体的に取り組んでいる」、「友達や周りの人の意見を大切にしなが協力して取り組んでいる」と回答した小学校児童の割合は全国平均とほぼ同程度で、中学校生徒は全国平均を上回っています。児童生徒が課題解決に向けて仲間と意見を交流することで、考えを広げたり、深めたりすることができるようになってきていると考えられます。

小中学校で「ICT 機器をよく使用している」という回答が全国平均を上回ったのは、学校がICT を積極的に使用し、授業で効果的に活用する取組を進めているからであると考えられます。

◆家庭での生活や学習について

○ 学校や先生に対する思いに関する状況 「当てはまる」と回答した児童生徒

番号	質問項目	小学校	中学校
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	□	○
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	○	○
(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか	□	○

○ 自己肯定感等に関する状況 「当てはまる」と回答した児童生徒

番号	質問項目	小学校	中学校
(5)	自分には、よいところがあると思いますか	☐	☒
(7)	将来の夢や目標を持っていますか	☒	☐
(8)	人が困っているときは、進んで助けていますか	☒	☒
(9)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	☒	☒
(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	☐	☒
(27)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	☒	☒

○ 家庭での学習に関する状況

※ (17) (19) 2 時間以上と回答した児童生徒の割合

番号	質問項目	小学校	中学校
(17)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	☒	☒
(19)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	☒	☒

小学校では、「先生が自分のよいところを認めてくれている」、「学校に行くのは楽しい」、「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合が全国平均を下回る結果でした。中学校では、これらの質問の回答が全国平均とほぼ同程度となっています。各学校において、児童生徒一人ひとりの長所や良さを見出し、それを伝え認めていくことを今後も大切にしていきます。

「人が困っているときは、進んで助けていますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」と回答した児童生徒の割合が全国平均とほぼ同程度という結果でした。土岐市の児童生徒は、日頃から、ふるさと学習などにより、多くの地域の方と関わることを通して、他者への思いやりや社会貢献の意識をもつことができていると考えられます。

小学校・中学校ともに、平日の授業時間以外に2時間以上勉強をしていると回答した児童生徒は、全国平均を上回る結果でした。また、土日の家庭学習の時間については全国平均とほぼ同程度でした。今後も授業以外での学習が習慣になるよう取り組みます。

3 今後に向けて

◆市全体で取り組む授業づくり

【終末からの授業改善】

児童生徒が「わかった!」「できた!」を実感し、「もっと知りたい!」と思えるように、授業のゴールを明確にして、児童生徒の姿をより具体的にイメージした授業を展開します。



◆今後の取組 小学校

- つまづきに応じた学習支援
- NEW! GIFU ウェブラーニング等の活用
- 【利活用の場】
- ・単元に入る前のレディネステスト
- ・授業の終末
- 【学力向上推進委員】
- ・学力の向上に向けた授業改善を提案し、各学校実施
- ・NEW! GIFU ウェブラーニング等の活用状況の把握と推進

◆今後の取組 中学校

- 個に応じた学習支援
- 「学びの実感」をもたせるための振り返り
- 【実施の場】
- ・授業の終末で振り返りの場を位置づける
- 【学力向上推進委員】
- ・終末のめざす姿のために「終末に何をやる」のか教師が明確にする
- ・自己調整をしながら学習を行うことができるように教師が支援する